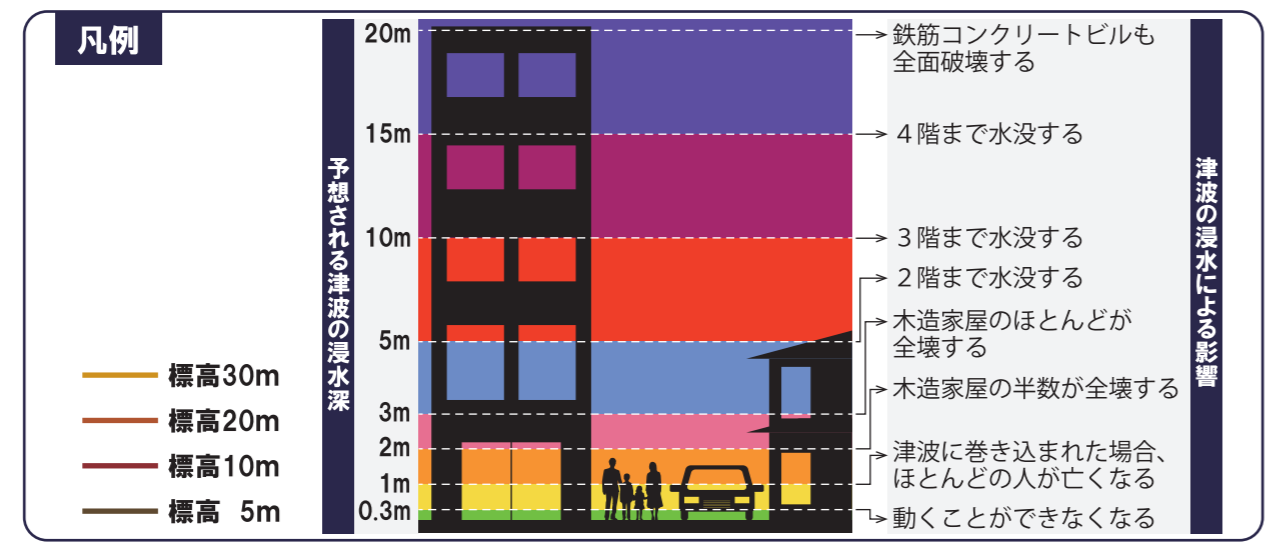


このマップは
「理論上最大クラスの
南海トラフ地震」
による津波の浸水想定を
浸水深
を示したものです

この計算結果は一つのシナリオに過ぎません。つぎに襲来する津波は、これより大きくなるかもしれませんし、小さくなるかもしれません。
市では、防災対策を行う際の目安として、この津波浸水想定を活用します。みなさんも、まず避難する場所をこのマップで検討してください。

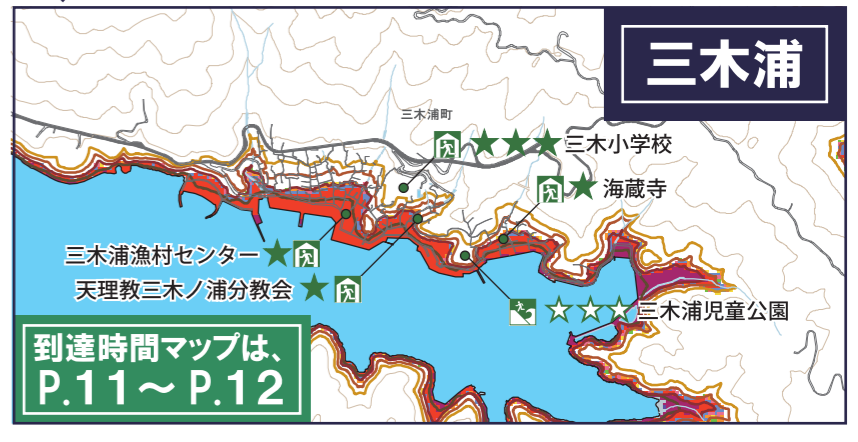
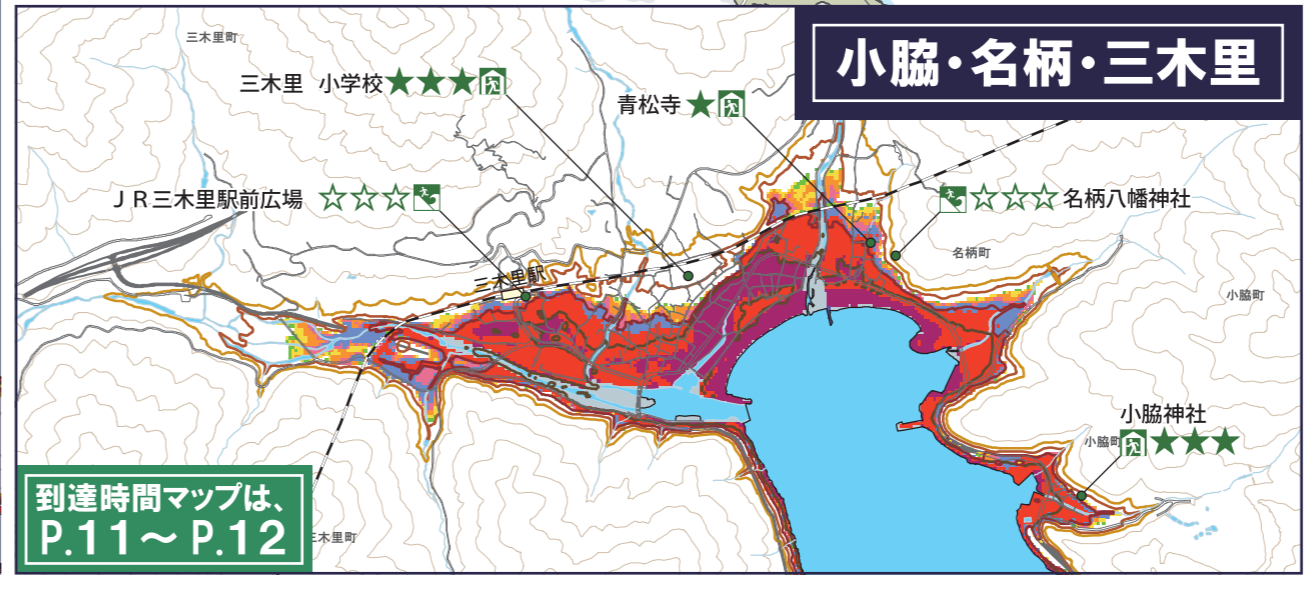
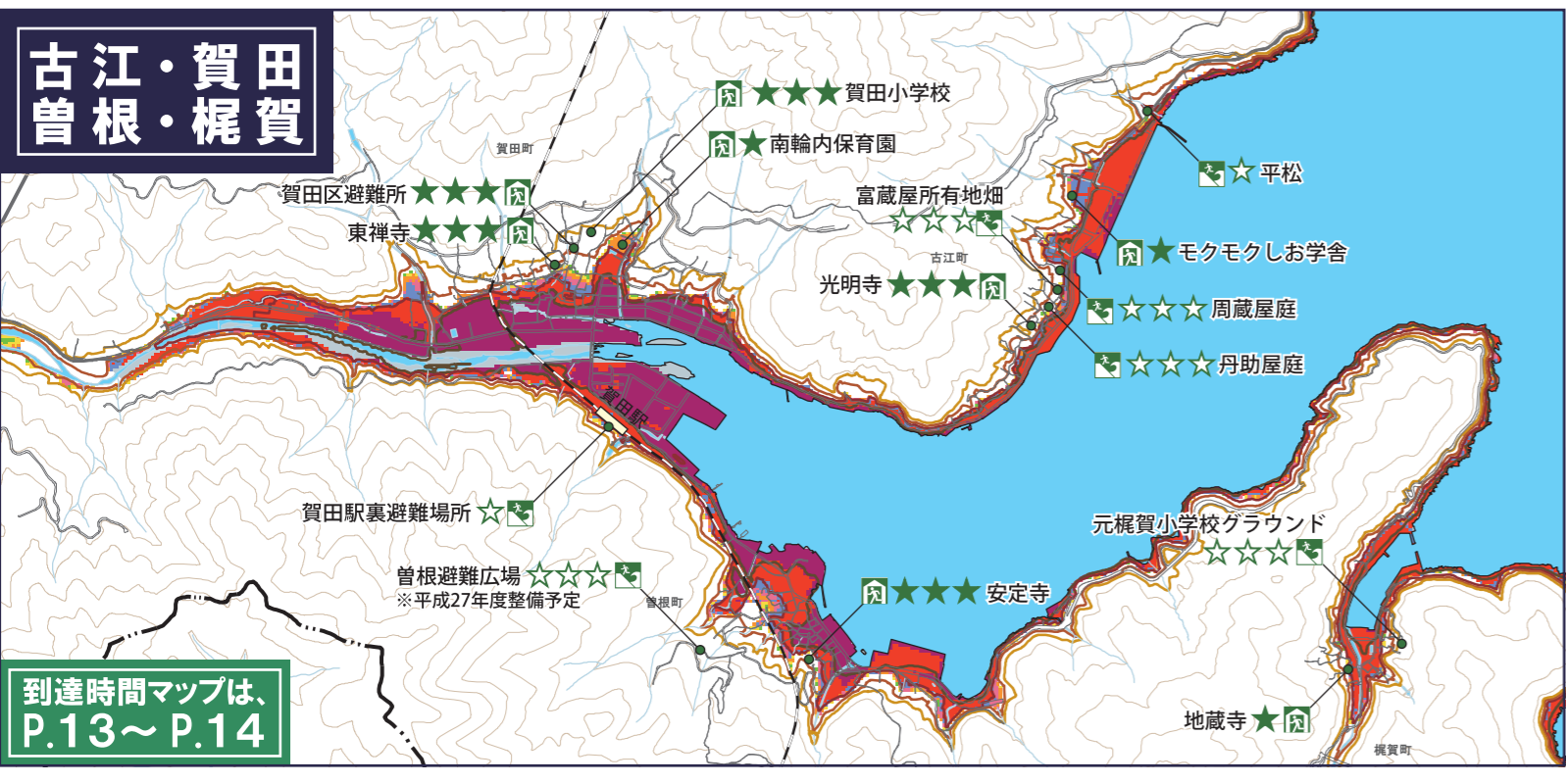
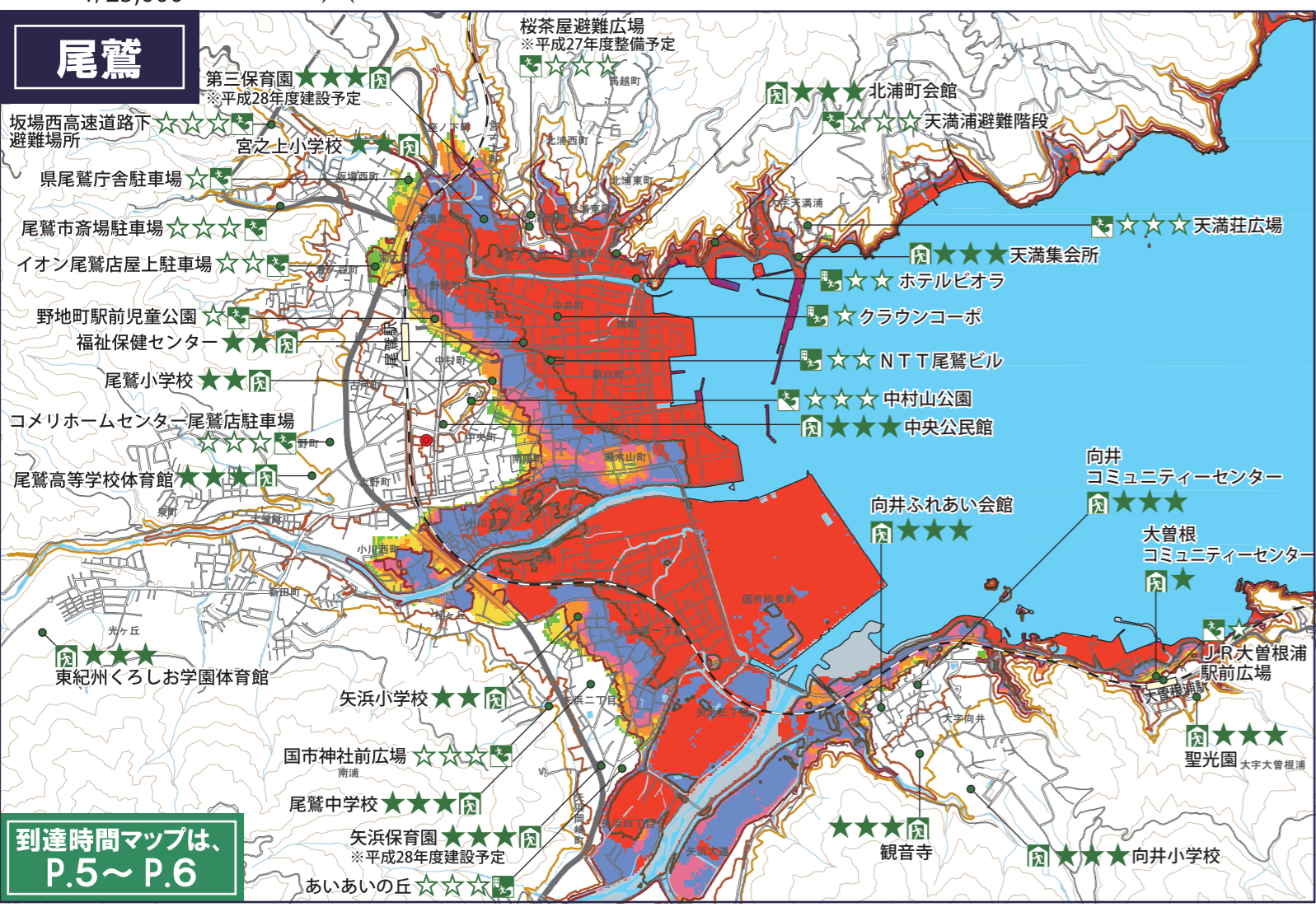


避難場所	収容避難所	学校の校舎など雨や風を防げる施設で、災害が長引いた場合には、長時間滞在することが可能です。
	緊急避難場所	公園や私有の建物など、一時的に避難する場所や建物で、長時間滞在することは困難です。
	指定津波緊急避難ビル	

マップからあなたの避難先を考えてみましょう

津波の避難先は、標高が高く、より海から離れた場所が安全ですが、避難が遅れてしまった場合には、そのような避難先に避難することが難しい場合があります。
そのため、「早い段階で避難できた」と「避難が遅れてしまったら」の2つの状況で避難先を考えておきましょう。

あなたの考える避難先の安全レベル★★★ 早い段階で避難できた	避難先
あなたの考える避難先の安全レベル★ 避難が遅れてしまったら	避難先



浸水深マップ